

2014年度

市立

いちかわ

自然博物館だより

12-1月号

(通巻 155号)

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！

いきもの
写真館



自然博物館収蔵写真

マアナゴ

食材に使うアナゴです。体の規則正しい点々を「棒はかり」の目盛りに見立てて「はかりめ」とも呼ばれます。

P 1 ☀️ いきもの写真館
マアナゴ

P 2 ☀️ 同じ場所を何度か訪れる
坂川旧河口
3
11月28日

P 4 ☀️ 花屋の花を観察する
ピンクッション

P 5 ☀️ 街かど自然探訪
高浜町・工場の町

☀️ くすのきのあるバス通りから
いろいろな秋の実

P 6 ☀️ むかしの写真で見る 昭和の風景
真間山の南斜面

P 7 ☀️ わたしの観察ノート
9月～10月ごろの記録

P 8 ☀️ 行事案内



同じ場所を何度か訪れる

坂川旧河口

11月28日

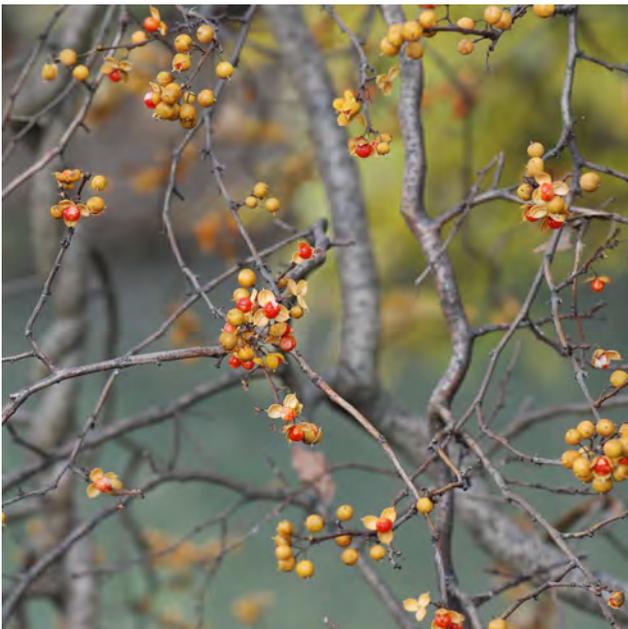
【珍しい実】

今回訪れたのは、市内の紅葉がちょうど見ごろを迎えた11月下旬です。坂川旧河口は全体に黄色っぽい風景になっていました。オギなどの草が枯れ、クズやエノキの葉が黄色く色づいていたためです。視線を上げると、里見公園の斜面は常緑樹の深い緑の中に落葉樹の黄色や橙色が点々とあり、モミジの紅葉とは違う趣がありました。そんな中、秋に草刈りされた堤防だけは春の野草が早くも育ち、青々としていました。

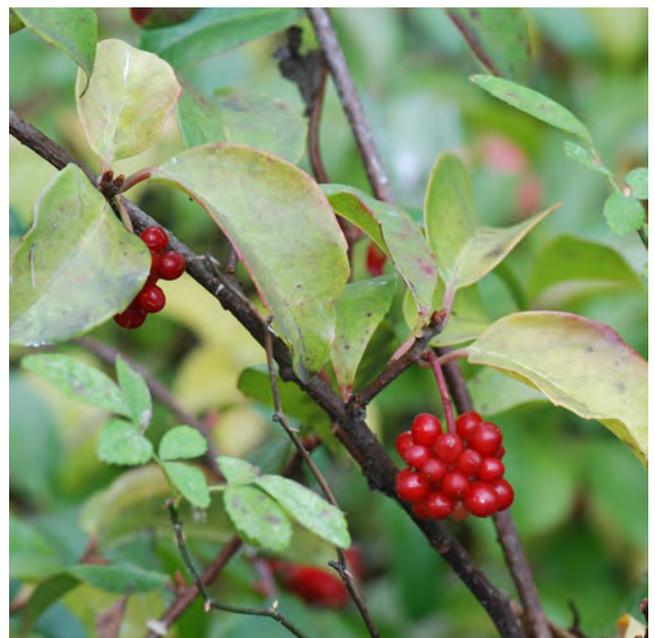
フジバカマは枯れて、綿毛のタネがたっぷりついていました。播いた人の話では、発芽率は悪いということです。横に伸びる

地下茎に新しい芽がつくので、そうやって増えていきます。

この日は、出会う機会の少ない2種類の実が印象的でした。ツルウメモドキとサネカズラです。どちらも決して珍しい植物ではないのですが、ツルウメモドキは伐られてしまうことが多くなり、最近は少なくなりました。サネカズラは、植物自体は林内や林縁に今でも多くあります。ただ、花を咲かせることは稀で実をつけることはさらに少ないようです。どちらもたわわに実っていて見事でした。切られたり採られたりしなければいいのですが。



ツルウメモドキ



サネカズラ（ピナンカズラ）

【野鳥でにぎわう季節】

坂川旧河口一帯は野鳥が多い場所です。この日も木の実を目当てに集まった鳥や、秋が深まって各地から渡ってきた鳥がずいぶん目につきました。

駐車場のエノキにはヒヨドリが群れていました。にぎやかな声が響き、双眼鏡で見ると実をついばんでいました。

近くの藪からは、ウグイスの笛鳴きが聞こえました。

トウネズミモチにも実がたわわで、ヒヨドリが出入りを繰り返していました。

坂川の古い河道沿いはアカメヤナギを中心にいろいろな木が生えています。姿勢を低くして待っていたら、想定外のアカゲラが目の前の枝に止まりました。川にアカゲラは不似合ですが、ここは近くに里見公園や国府台緑地があるので、そこに暮らす鳥たちの生活圏にもなっているようです。

せっかく見つけたツルウメモドキに赤い実が少ないので見ていたら、ヒヨドリがつ

いばんでいました。割れて実が出るとすぐに食べられてしまうのでしょうか。

水辺の枝からアオサギが飛び立ち、ぼちぼちと水音がしたので目を向けるとカワセミが止まっていた。サクラの枝先ではシメが鳴いていました。

江戸川の本流近くには丸く掘った場所があり、いまではヤナギが茂っています。一見すると鳥の姿はありませんが、待っていたらいろいろと出てきました。ヒヨドリばかりと思っていたヤナギの枝には、ツグミが止まっていた。やがて次々に茂みから飛び立って里見公園の斜面林の方へ集団で飛んでいきました。

茂みの中からはアオジとカワラヒワの声がよく聞こえました。時々、飛び出していました。離れた場所にあるヤナギの枝先には色鮮やかなモズがいました。

変化に富んだ景色のあちこちで鳥たちが暮らしていました。



アカゲラが来たヤナギ。下に水面が見える。

花屋の花を観察する

ピンクッション



花の全体的な姿を「針さし」に見立ててピンクッションの名前があります。南半球に分布するヤマモガシ科に属し、学名のままで「レウコスパルムム」と呼ぶこともあるようです。

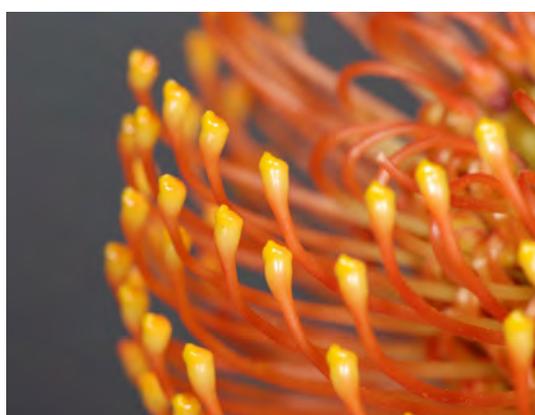
花のつくりは難解です。まず、ピン（針）に相当するものは「雌しべ」です。花びらと雄しべは小さく、雌しべの根元にあります。雌しべ1本で花ひとつなので、たくさんの花が集まってひとつの「花」になっています。ネムノキに似ていますが、ネムノキは1本の雌しべと多数の雄しべが長く突き出します。

この仲間は、雌しべが花粉を虫や鳥につける役目を担います。つまり、最初、雌しべは根元の花の中に「頭を突っ込んだ」状態にあり、この時、中で雄しべの花粉が雌しべにくっつきます。その後、雌しべはすっと伸び、ピンクッションの名の通り、刺さった針のように広がります。ここに、蜜を求めておもに鳥が飛来し、花粉を体につけるのです。

これまでに「花びら」以外のものが花の主役となる例を紹介してきましたが、ピンクッションでは雌しべが花の主役として全体を目立たせる役目をしているのです。



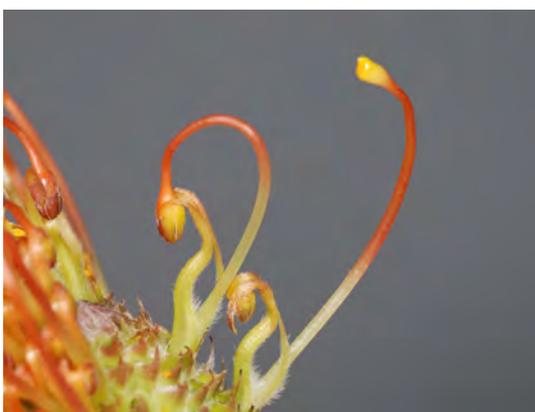
「針さし」のような花。外側からピンが開いていく。



花の外周に広がった雌しべ。先端は湿っていて花粉がついている。



開く前の雌しべ。花の中に頭を突っ込み、ここで花粉をつける。



個別の花のようす。左が雌しべが伸びる前、右が突き出した状態。



街かど自然探訪

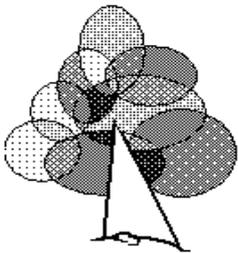
おじゃまします!

たかはままち
高浜町・工場の町

高浜町に住民はいません(平成26年9月30日現在)。大きなトラックが工場の敷地を出入りしますが、歩道を歩く人影は見られませんでした。市内では工場と住宅が近接している地域もありますが、ここは工場のために整えられた町です。それでも、植込みのトベラとトウネズミモチに実がたわわについているのを目ざとく見つけた2羽のヒヨドリは、どこにいてもにぎやかです。緑化のための常緑樹の濃い緑と、灰色の建物やタンクを背景に、サクラの紅葉が鮮やかでした。



△道路の行き止まりからは、海には近づけませんでした。
トウネズミモチの小さな黒い実は、ブドウの房のようです。



くすのきのあるバス通りから No.97

いろいろな秋の実

西船橋にあるファミリーレストランの駐車場に、紅葉した葉と白く花のように見える物がついた大きな木が日差しを浴びてきれいでした。マンションの4～5階の高さです。近づくと3個の白い実が、木全体についているのだとわかりました。後日また見に行くと、ハトが3羽木の上で実を食べていました。ナンキンハゼだそうです。9月にいつもの通り道のお宅に植木屋さんが入っていて、アラカシの木を剪定していました。緑色の10mm位のドングリの根元に3mm位の小さな葉芽らしきものがくっつく様に枝の先について

いました。10月は台風がたびたび来しました。風が強かった日の後、シイノミがゴロゴロ道に落ち、車に轆かれ道の一部が白くなっていました。葛飾八幡宮の境内を通った時、2歳ぐらいの女の子が手にいっぱい銀杏を持っていたので「素手で触るとかぶれるかもしれないですよ。手を洗ったほうがいい」とお母さんに言いました。うちの子もハゼや銀杏で手以外の触ったところが酷くカブレて可哀想なことをしたことがあり、思い出してしまいました。

(M.M.)

むかしの写真でみる

昭和の風景

昭和48（1973）年 撮影

真間山の南斜面



写真提供 岩瀬徹氏

写真は、真間山の南斜面の様子です。境内へ上がる石段の西側（左側）の坂道（女坂）が、画面下側、林と住宅の屋根の境のところに写っています。後方の建物は千葉商科大学です。

いまから四十年ほど前に撮影された写真を見ると、マツが多いことがわかります。大きなマツがまばらに生えて、その下に細いマツや落葉広葉樹が茂っています。マツはクロマツが主で、アカマツが混じっていた可能性もあります。画面左側のこんもりした木はスダジイかタブノキのようです。

この当時の林は、高木としてマツがあり、その下に落葉広葉樹や常緑広葉樹が育っている段階にありました。高く聳えるマツは、昭和の時代の風景の一つなのです。

わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・ハシリグモ類の「まどい」がめだちました(9/6)。生まれたばかりの子グモがひとまとまりになってドーム状の網に守られています。
- ・博物館の観察会で、エコアップ池の生き物捕りをしました(9/14)。参加者の人が大きなドジョウをすくって盛り上がりました。
- ・台風18号が通過し、エコアップ池は冠水したようです(10/7)。流されてきたのか、いつもはいないヒキガエルが跳ねていました。

以上 金子謙一(自然博物館)

◆北方より

- ・大柏川沿いの道路を通りかかったところ、モズの高鳴きが調節池緑地から聞こえてきました(9/19)。

須藤 治(自然博物館)

◆大野町より

- ・梨風東緑地を見に行きました(10/25)。少し離れた所から見ると、スタジイの丸い樹幹が青空に映えてきれいでした。

◆坂川旧河口より

- ・キンミズヒキの茎が伸び、黄色い花が何本もの穂になって咲いていました(9/21)。秋に黄色の花は少ないので目を引きました。
- ・ゴマダラチョウの姿はなく、アカボシゴマダラを何匹も見ました(9/21)。飛んでいる姿だけでなく、エノキの葉に産卵している個体や、別の場所ではサナギから羽化したばかりの個体も見ました。

◆市川南ビオトープより

- ・繁茂したヨシとヒメガマを刈り払いました(9/30)。明るくなった水たまりにアキアカネが飛来して、そこここで忙しく産卵を始めました。とてもたくさんいました。

◆行徳橋より

- ・セイタカアワダチソウが満開の時期になりましたが、あの黄色い花はすっかり少なくなりました(10/15)。行徳橋南詰も、以前は河川敷の草むらが一面の黄色に染まりましたが、いまでは端の方で咲いているだけで、ヨシやオギ、クズなどの群落に姿を変えていました。

◆江戸川放水路より

- ・今年生まれのトビハゼが、たくさんいました(10/3)。この日は潮が高かったので、アシ原の水際に集まっていました。
- ・左岸側(田尻・高谷)は、堤防のすその部分に、アシ原に面した通路がありません。歩く先々でトノサマバツタが飛び出しました(10/3)。

以上 金子謙一

9月になると残暑がほとんどなく、過ごしやすい日が続きました。10月6日に台風18号が市川市近くを通過し、風雨が強く市内でも避難勧告が出されました。14日には台風19号が関東地方北部を通過しました。

9月27日に御嶽山が噴火しました。火山灰は市内では見られませんでした。



行事案内



長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 1月10日㊥(第2土曜日です。ご注意ください。)、2月7日㊥、3月7日㊥
午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

自然講座

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

いろいろな自然の話題を紹介する、室内講座です。

- ・会場 八幡市民談話室(国道14号線本八幡駅前交差点角)
- ・時間 午後6時～8時
- ・内容 1月17日㊥ 「トビハゼを守る取り組み」 担当/金子 謙一
24日㊥ 「『街かど自然探訪』を取材して」 担当/宮橋美弥子
31日㊥ 「市街地のいきもの2
・動物の生息痕跡を記録する」 担当/須藤 治

観察シートを使った観察会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

観察シートを使って、自分で歩いて自分で見つける観察会です。

自然観察園の季節の見どころを巡ります。ご家族でも個人でも、お気軽にご参加ください。

- ・日にち 平成27年3月15日㊥
- ・集合場所 観賞植物園(自然観察園を各自、各グループごとに歩きます)
- ・時間 スタートは10時から11時の間、12時までにゴールしてください。

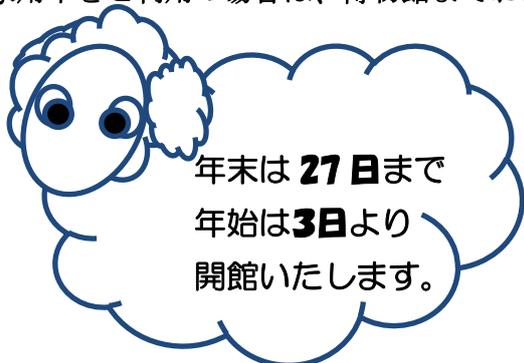
長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいますか。(雨天中止)

- ・日時 12月21日㊥、1月25日㊥、2月22日㊥、3月29日㊥、午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けのお手伝いをして下さいますか。(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 3月8日㊥(12～2月はお休み) 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。



年末は**27日**まで
年始は**3日**より
開館いたします。

第26巻 第5号 (通巻第155号)

平成26年12月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館

(市川市教育委員会生涯学習部自然学習課)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/>